



原田病院 自動再来受付機導入



10月より予約の方を対象に自動再来受付機を導入しました。

原田病院ではこれまで受付待ちの患者さんを長い時間お待たせし、受付開始時刻には列を作ってお待たせいただくなどのご不便をおかけしておりましたが、その問題への対策の一環としてこのたび自動再来受付機を導入しました。

受付窓口が開く前に患者さんご自身で自動再来受付をしていただくことにより、列を作ることなくソファでゆっくりお待ちいただけるようになっただけでなく、受付票を持参いただくことにより患者誤認防止対策にもつながっています。また、業務面でも患者さんを受付窓口にお呼びする前にファイルの準備を整えることができるなど、窓口業務もスムーズに遂行できるようになりました。

受付窓口

まだまだ課題はありますが、今後も運用の検討を繰り返し、より快適に待ち時間を過ごしていただけるよう努めてまいります。

医療サービス課
課長 宮田 敏朗



透析NSTプロジェクト

10月から「透析NSTプロジェクト」を開始しました。

このプロジェクトは透析患者さんの栄養状態改善を目的にスタートしました。活動内容は月に7回、各サテライト(一陽会クリニック・イーストクリニック・横川クリニック)に担当の管理栄養士が訪問し、患者さんに栄養指導を行います。その時の状況を医師・看護師・臨床工学技士に報告し、患者さん個々にあわせた食事の内容をスタッフ達と共有していきます。患者さんと接する機会の多い現場スタッフと情報を共有することにより、食事に関してその患者さんにあった声掛けができ、栄養状態の改善につなげていけるよう、各職種の皆さんに協力していただきながらチーム医療で取り組んでいます。

プロジェクト期間は3年です。食生活を変えていくということは、簡単なようでなかなか実行できないことでもあります。栄養指導を通して食生活を変えていただくことにより、体調が変化してきていることを実感していただけたらと思っています。

プロジェクトリーダー

管理栄養士 山崎 晃子

管理栄養士 室岡 みほ



近隣医療機関のご紹介

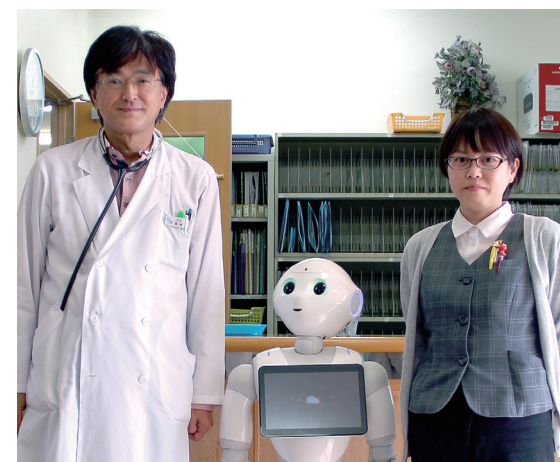
斉藤内科医院 (安佐南区大塚西)

「内科全般から小児科までプライマリーケアに従事しています。」
今回は安佐南区大塚西に在ります斉藤内科医院のご紹介です

当院は、西暦2000年に安佐南区大塚の、アストラム終着駅「広域公園前」のビルで内科クリニックを開業しました。広大旧第二内科出身で、元々は呼吸器が専門でしたが、診療では内科全般から小児科までプライマリーケアに従事しています。

原田病院には糖尿病や腎疾患に関する専門的治療のみならず、幅広く、ほぼすべての領域の患者さんを診て頂いているので、大変心強く有難く思っています。また当方が一番有難いのは、特養の配置医師を務めている関係で、患者さんの基礎疾患増悪時や急変時に突然紹介させていただくことが多いのに、その度いやな顔ひとつされず受け容れて下さることです。原田病院の存在無しには、私の配置医師としての職務は遂行不能と言っても良いです。本当に感謝しております。

斉藤内科医院 院長 齋藤 敏史



- 所在地 〒731-3167 広島市安佐南区大塚西4丁目8-31号
TEL:(082)849-5750 FAX:(082)849-5751
- 診療科目 内科・呼吸器科・消化器科・リハビリ科
- 診療時間 午前 9:00~12:30
午後 15:00~18:30
- 休診日 木曜日午後、土曜日午後、日曜日、祝日
- 駐車場 50台



日本医療機能評価機構認定更新

原田病院は平成30年10月、日本医療機能評価機構から機能種別版評価項目3rdG.Ver2.0の認定をいただきました。今回で5回目の認定になります。

今回の活動中に得た教訓や気づきをこれからの病院づくりに役立てていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

なお、審査結果の詳細が日本医療機能評価機構のホームページに掲載されていますので、ご参照ください。

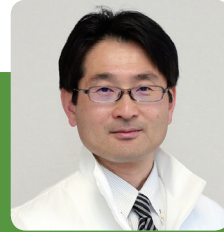
<http://www.report.jcqhc.or.jp/detail/id=3657>

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 ホームページ 原田病院審査結果)





横川クリニックでは超音波ガイド下PTAを始めました!



横川クリニック
院長 内藤 隆之

大事なシャントをできるだけ長く良い状態でお使い頂けるように、透析患者の皆さま方には日々、シャントを見て、触れて、音を聞き、気になる点がないかを確認頂いております。スタッフも透析開始時にシャントの状態を確認させて頂いておりますが、一部の方においてシャントの調子が良いのか、そうでないのか判断に苦慮することがありました。その場合、シャントに造影剤を流し、X線透視装置で描出するシャント造影検査(図1参照)を行っていました。

シャント造影により狭窄が見つかり、透析に支障をきたす可能性があるかと判断したら経皮的血管拡張術(以下PTA)と呼ばれる処置をします。この処置は図2のように、シャントにガイドワイヤーと呼ばれる金属線とバルーンカテーテルと呼ばれる風船を入れ、狭窄部位で風船を拡張させて狭窄の改善を図る治療になります。

狭窄部位の確認とガイドワイヤーあるいはバルーンカテーテルの位置をX線透視装置で確認しながら施術します(図3参照)。

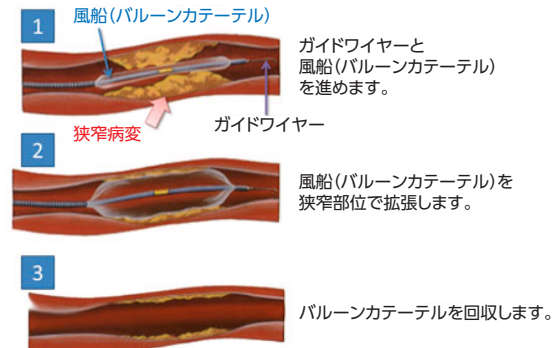


図2 経皮的血管拡張術

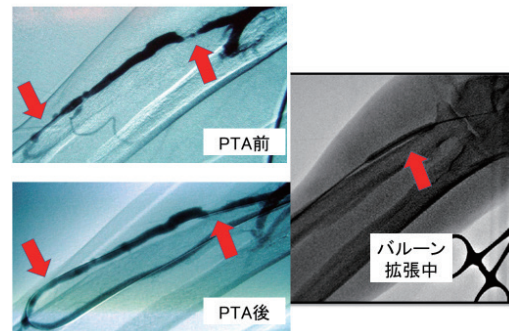


図3 PTA前後のシャント造影所見とバルーン拡張中の画像

X線透視装置を用いたシャントPTAは2000年頃から多く行われるようになり、図4のように狭窄をきたす頻度が高い部位があることが分かってきました。

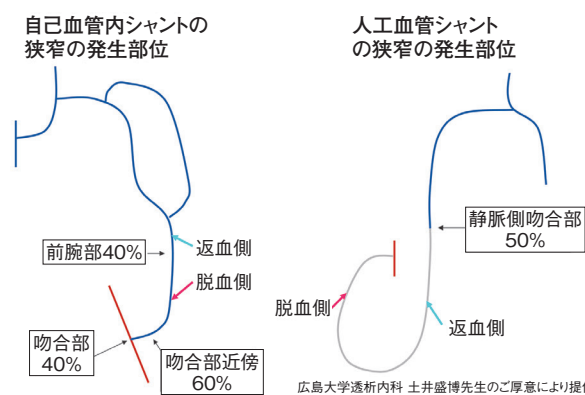


図4 シャント狭窄の好発部位 (%は重複病変を含む)

一方、X線透視装置は非常に高額で操作も複雑なため、シャント造影検査ができる施設は原田病院あるいは一部の基幹病院に限られていました。そこでX線透視装置を持っていない施設でもシャント管理の精度を上げる様々な試みがなされ、シャント超音波検査(以下シャントエコー)の有用性が評価されるようになりました。シャントエコーを行うとシャント内の形態変化と同時に流れる血液の速度異常も詳細に数値化して確認することができ、近年様々な施設で行われるようになりました。当クリニックも数年前から積極的にシャントエコーによる評価を行ってきました。

皆さまのお陰でシャントエコーの様々な知見を積み重ねることができ、狭窄の好発部位をエコーで描出する技術を磨くことができるようになってきました。今では従来シャント造影検査でしか得ることができなかった相当の領域までシャントエコーで異常を検出できるようになってきました。さらに数年前頃から先駆的な施設で超音波ガイド下PTAが行われるようになり、当院スタッフも準備を入念に進めてまいりました。当院で、この治療を行うニーズがどのようなものであるかを検討したところ、図5のようにPTAを受けたことのある患者さんが約6割おられ、そのうち7割の方は超音波ガイド下PTAで対応可能な状況でした。

そして2018年7月から超音波ガイド下PTAを開始しました。手順は以下のようになります。

- 超音波(エコー)を用いて、血管狭窄病変の確認をします。
- 局所麻酔後に血管を穿刺し、シースという柔らかい管を血管に留置します。
- ガイドワイヤーを進めます。
- ガイドワイヤーに沿って、バルーンカテーテルを狭窄部位へ進めます。

- 狭窄部位の周辺に十分な局所麻酔を行います。
- 風船(バルーン)を狭窄部位で拡張します。
- 十分に血管が拡張したことを確認して、バルーンカテーテルを回収します。
- エコーを用いて治療の結果を確認します。
- シースを抜去して、圧迫止血して手技を終了します。

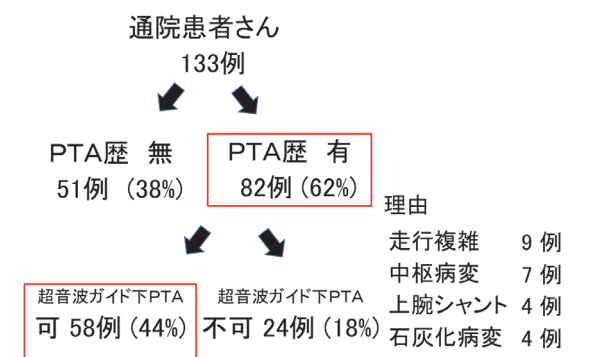
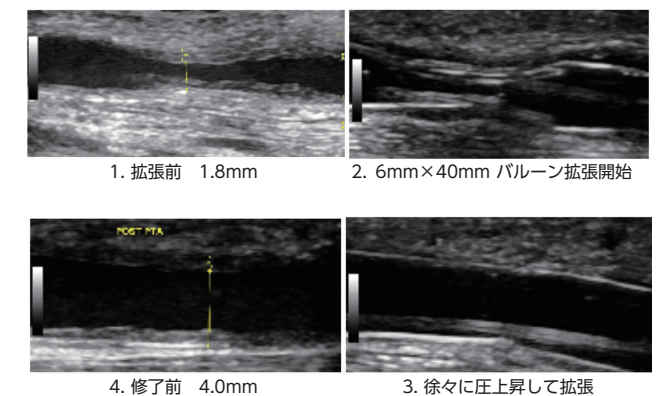
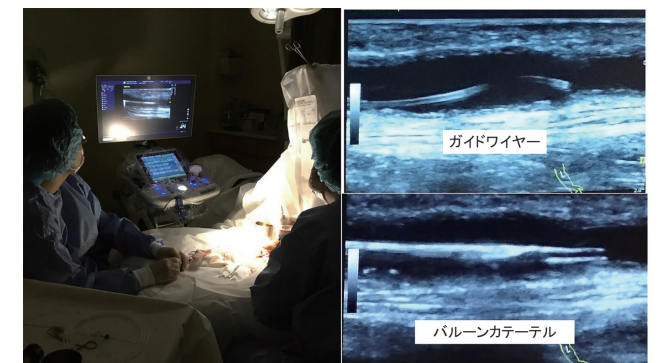


図5 当クリニック通院中の皆様のシャント治療の現状



現在平均月3-4件のペースで行い、成功率92%の状況です。シャントが複雑、肩から鎖骨に病変がある、シャントの石灰化が高度な方のご期待に沿えないのは残念ですが、そうでない方々には安心して治療を受けて頂けるように、これからも研鑽を積んでまいります。治療を受けられた患者さんから、“通いなれた場所で、知っているスタッフに治療してもらえるから安心”と、とても嬉しいお言葉を頂きました。少しでも心が穏やかに過ごしていただけるよう、今後もお声がけのタイミングやBGMなども重視して、スタッフ一同で取り組んでまいります。

連携病院のご紹介 Vol.6 ～地域連携室より～

地域連携室 課長 佐々木 章

このコーナーは、当院が医療連携を結んでいる病院の、主に連携担当者として活躍されている職員の方にスポットを当ててご紹介させて頂くコーナーです。

今回は、医療法人清風会 五日市記念病院の地域医療連携室をご紹介します。本日は、住田室長と川増副主任にお話を伺いました。

○いつも大変お世話になっております。こういう改まった感じでお話をするのは少し照れますが本日はよろしくをお願いします！

(住田室長・川増副主任)「こちらこそお世話になってます。今日はよろしくをお願いします！」

○五日市記念病院さんは脳神経外科を中心とした急性期医療を行われていて、内科的な身体管理が必要な患者さんの受け入れもしてくださるので、当院から紹介させて頂くことも多く、大変感謝しています。

(住田室長)「ありがとうございます。脳外科だけでなく、内科・循環器内科・血液内科など医師体制が少しずつ充実してきています。合併症のある方など医師同士連携して全身管理が出来るようになってきています。」

○地域医療連携室の職員構成を教えてください。

(住田室長)「はい。看護師1 社会福祉士4の計5名が在籍しています。私が主に入院相談対応(当日入院は医師対応)をしながら、病床管理にも関わっています。入院相談に関しては、やむを得ない場合を除き、なるべくお断りしないようにという病院の方針の元、対応しています。社会福祉士は退院支援がかなりのウエイトを占めています。入院患者さんの在院日数がとても短くなっていますので対応に追われています。それだけではなく、外来の方の対応・相談など様々ですが、5名が協力して行っています。」

(川増副主任)「社会的な問題を抱えた方が増えており対応に苦戦する事も多くなっています。ケアマネジャー始め、他の病院や地域の方と相談しながら退院に結びつけています。」

○病棟の種別も教えてください。

(川増副主任)「はい。一般病棟(7:1) 60床、回復期リハビリ病棟80床、医療療養病棟40床があります。それぞれ担当の社会福祉士が配置されています。」

○この仕事をするにあたり意識されていること、大事にされていることはありますか？

(住田室長)「患者さんの立場になり、自分ならどうするだろうと考え、対応するよう心がけています。伝えるべき事は、内外問わず意見をしっかり伝えるようにしています。」

(川増副主任)「近隣関係機関としっかり連携を取り情報共有を図っていきたいです。」

○ありがとうございました。近日中に病院のホームページが大幅にリニューアルされる予定とのことで、そちらも楽しみにしたいと思います。本日はお忙しい中ご協力頂きありがとうございました。引き続きこれからもよろしく願いいたします！

(住田室長・川増副主任)こちらこそありがとうございました！



医療法人清風会 五日市記念病院



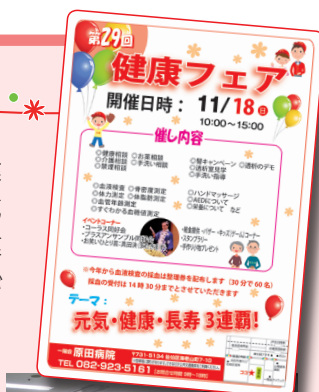
地域医療連携室の皆さま

健康フェア 御礼



平成30年11月18日(日)「健康づくり応援 元気・健康・長寿3連覇」をテーマに原田病院で開催した「第29回健康フェア」は来場者687名と、大盛況のうちに幕を閉じることができました。皆さまのご来場誠にありがとうございました。

来年も11月頃に開催する予定です。今後も少しずつ工夫を重ね、今までよりさらに楽しんでいただけるイベントにしていこうと思っておりますので、次回開催時にもぜひ足をお運びください。よろしくお願いいたします。



コラム

いきいきさん

第43回 一陽会クリニック 看護師 石橋 真央



透析治療に伴う苦痛を少しでも軽減できるよう努めてまいります。

原田病院の透析室で5年・病棟で3年の勤務を経て、現在は子育てをしながら一陽会クリニックに勤務しております。日々慌ただしく過ごしていますが、周りの皆さまの理解と協力、職場環境に感謝し、長い間一陽会に勤めさせて頂いております。



原田病院透析室勤務時に、入院されていた患者さんが現在もクリニックに元気に通院されている姿を見ると、私も頑張ろうと元気をもらうことができます。

透析治療は生涯続く治療のため、患者さんの肉体的・精神的苦痛は大きいと思いますが、良質で安心できる医療を提供することで、少しでもその苦痛を軽減することができるよう日々努力してまいりたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

健康レシピ

白菜と生姜のスープ



今回は、白菜と生姜を使った体を芯から温めるスープのご紹介です。

まず、生姜の辛味の主成分はジンゲロールと呼ばれ、加熱するとショウガオールに変化します。これらの成分は血行を良くし、体の芯から温める効果があり、冷え性の方などにおすすめです。また、白菜はビタミンCなどのビタミンやミネラルが多く含まれる冬野菜で、風邪予防や免疫力アップに効果的な野菜です。簡単に作れるスープですので、ぜひご家庭でお試しいただき、冬も元気に過ごしていきましょう。

エネルギー：31Kcal／たんぱく質：1.3g／塩分：0.8g

《材料(1人分)》

白菜…………… 50g(大きめの葉1/2枚)
生姜…………… 2g
ベーコン………… 5g
鶏がらスープの素… 1.5g(小さじ1/2強)
水…………… 150ml

《作り方》

①生姜は皮をむき千切り、白菜はざく切りにする。
②ベーコンは1口大に切る。
③鍋に水を入れ、1で切った野菜を入れ柔らかくなるまで煮込む。
④火が通ってきたら、2と鶏がらスープの素を入れさらに火を入れる。



管理栄養士 行森 貴子